

(新聞発表用)

輸入

1	販 売 名	オンコピン注射用 1mg (日本化薬株式会社)
2	一 般 名	硫酸ピンクリスチン
3	申請者名	日本化薬株式会社
4	成分・分量	1バイアル中, 硫酸ピンクリスチンを 1mg 含有する。
5	用法・用量 (「抗がん剤報告書:ピンクリスチン、ドキソルビシン及びデキサメタゾン(骨髄腫 VAD 療法)」に該当する追加部分のみ記載、用法・用量の詳細は別紙 1-1 参照。)	2. 多発性骨髄腫に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合 塩酸ドキソルビシン, リン酸デキサメタゾンナトリウムとの併用において, 標準的な硫酸ピンクリスチンの投与量及び投与方法は, 1 日量 0.4mg を 24 時間持続静脈注射する。これを 4 日間連続で行い, その後 17~24 日間休薬する。これを 1クールとし, 投与を繰り返す。
6	効能・効果 (「抗がん剤報告書:ピンクリスチン、ドキソルビシン及びデキサメタゾン(骨髄腫 VAD 療法)」に該当する追加部分のみ記載、効能・効果の詳細は別紙 1-1 参照。)	4. 以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法 多発性骨髄腫
7	備 考	輸入先国: 米国 本剤は, 抗腫瘍性植物成分製剤である。 添付文書を別紙 2-1 として添付。

別紙 1-1

用法・用量（下線部追加・変更部分）

1. 通常，硫酸ビクリスチンとして小児 0.05～0.1mg/kg，成人 0.02～0.05mg/kg を週 1 回静脈注射する。

ただし，副作用を避けるため，1 回量 2mg を超えないものとする。

2. 多発性骨髄腫に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合

塩酸ドキシソルピシン，リン酸デキサメタゾンナトリウムとの併用において，標準的な硫酸ビクリスチンの投与量及び投与方法は，1 日量 0.4mg を 24 時間持続静脈注射する。これを 4 日間連続で行い，その後 17～24 日間休薬する。これを 1 ケールとし，投与を繰り返す。

3. 悪性星細胞腫，乏突起膠腫成分を有する神経膠腫に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合

硫酸ビクリスチンとして 1.4mg/m²（体表面積）を，2 回静脈注射する。1 回目の投与の 3 週間後に 2 回目の投与を行い，6～8 週を 1 ケールとし，投与を繰り返す。

ただし，副作用を避けるため，1 回量 2mg を超えないものとする。

効能・効果（下線部追加・変更部分）

1. 白血病（急性白血病，慢性白血病の急性転化時を含む）

2. 悪性リンパ腫（細網肉腫，リンパ肉腫，ホジキン病）

3. 小児腫瘍（神経芽腫，ウィルムス腫瘍，横紋筋肉腫，睪丸胎児性癌，血管肉腫等）

4. 以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法

多発性骨髄腫

悪性星細胞腫，乏突起膠腫成分を有する神経膠腫

(新聞発表用)

製造

1	販 売 名	アドリアシン注
2	一 般 名	塩酸ドキソルピシン
3	申 請 者 名	協和醸酵工業株式会社
4	成 分 ・ 含 量	1 瓶中に日局塩酸ドキソルピシン 10 mg (力価) を含有する。
5	用 法 ・ 用 量 (「抗がん剤報告書：ビンクリスチン、ドキソルピシン及びデキサメタゾン(骨髄腫 VAD 療法)」に該当する追加部分のみ、記載、用法・用量の詳細は別紙 1-2 参照。)	多発性骨髄腫に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合 9) 硫酸ビンクリスチン、リン酸デキサメタゾンナトリウムとの併用において、標準的な塩酸ドキソルピシンの投与量及び投与方法は、1 日量塩酸ドキソルピシンとして 9 mg (力価) /m ² (体表面積) を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、必要に応じて輸液に希釈して 24 時間持続静注する。これを 4 日間連続で行う。その後休薬し、3～4 週毎繰り返す方法を 1 クールとする。 なお、年齢、症状により適宜減量する。また塩酸ドキソルピシンの総投与量は 500 mg (力価) /m ² (体表面積) 以下とする。
6	効 能 ・ 効 果 (「抗がん剤報告書：ビンクリスチン、ドキソルピシン及びデキサメタゾン(骨髄腫 VAD 療法)」に該当する追加部分のみ、記載、用法・用量の詳細は別紙 1-2 参照。)	以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法 多発性骨髄腫
7	備 考	本剤はアントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤である。 添付文書を別紙 2-2 として添付

用法・用量（下線部追加・変更部分）

◇塩酸ドキソルピシン通常療法

悪性リンパ腫（細網肉腫、リンパ肉腫、ホジキン病）、肺癌、消化器癌（胃癌、胆のう・胆管癌、膵臓癌、肝癌、結腸癌、直腸癌等）、乳癌、骨肉腫の場合

1) 1日量、塩酸ドキソルピシンとして10mg（0.2mg/kg）（力価）を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、1日1回4～6日間連日静脈内ワンショット投与後、7～10日間休薬する。

この方法を1クールとし、2～3クール繰り返す。

2) 1日量、塩酸ドキソルピシンとして20mg（0.4mg/kg）（力価）を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、1日1回2～3日間静脈内にワンショット投与後、7～10日間休薬する。この方法を1クールとし、2～3クール繰り返す。

3) 1日量、塩酸ドキソルピシンとして20mg～30mg（0.4～0.6mg/kg）（力価）を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、1日1回、3日間連日静脈内にワンショット投与後、18日間休薬する。

この方法を1クールとし、2～3クール繰り返す。

4) 総投与量は塩酸ドキソルピシンとして500mg（力価）/m²（体表面積）以下とする。

乳癌(手術可能例における術前、あるいは術後化学療法)に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場
合

5) シクロホスファミドとの併用において、標準的な塩酸ドキソルピシンの投与量及び投与方法は、1日量、塩酸ドキソルピシンとして60mg（力価）/m²（体表面積）を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、1日1回静脈内投与後、20日間休薬する。

この方法を1クールとし、4クール繰り返す。

なお、年齢、症状により適宜減量する。また塩酸ドキソルピシンの総投与量は500mg（力価）/m²（体表面積）以下とする。

子宮体癌(術後化学療法、転移・再発時化学療法)に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場
合

6) シスプラチンとの併用において、標準的な塩酸ドキソルピシンの投与量及び投与方法は、1日量、塩酸ドキソルピシンとして60mg（力価）/m²（体表面積）を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、1日1回静脈内投与し、その後休薬し3週毎繰り返す。

なお、年齢、症状により適宜減量する。また塩酸ドキソルピシンの総投与量は500mg（力価）/m²（体表面積）以下とする。

悪性骨・軟部腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場
合

7) イホスファミドとの併用において、標準的な塩酸ドキソルピシンの投与量及び投与方法は、1日量、塩酸ドキソルピシンとして20～30mg（力価）/m²（体表面積）を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、1日1回3日間連続で静脈内投与し、その後休薬し3～4週毎繰り返す。

なお、年齢、症状により適宜減量する。また塩酸ドキソルピシンの総投与量は500mg（力価）/m²（体表面積）以下とする。

本剤単剤では3)、4)に従う。

悪性骨腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合

8) シスプラチンとの併用において、標準的な塩酸ドキソルピシンの投与量及び投与方法は、1日量、塩酸ドキソルピシンとして20mg(力価)/m²(体表面積)を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、1日1回3日間連続で静脈内投与または点滴静注し、その後3週間休薬する。これを1クールとし、投与を繰り返す。

なお、疾患、症状により適宜減量する。また塩酸ドキソルピシンの総投与量は500mg(力価)/m²(体表面積)以下とする。

多発性骨髄腫に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合

9) 硫酸ビンクリスチン、リン酸デキサメタゾンナトリウムとの併用において、標準的な塩酸ドキソルピシンの投与量及び投与方法は、1日量塩酸ドキソルピシンとして9mg(力価)/m²(体表面積)を日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、必要に応じて輸液に希釈して24時間持続静注する。これを4日間連続で行う。その後休薬し、3~4週毎繰り返す方法を1クールとする。

なお、年齢、症状により適宜減量する。また塩酸ドキソルピシンの総投与量は500mg(力価)/m²(体表面積)以下とする。

小児悪性固形腫瘍(ユーイング肉腫ファミリー腫瘍、横紋筋肉腫、神経芽腫、網膜芽腫、肝芽腫、腎芽腫等)に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合

10) 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、標準的な塩酸ドキソルピシンの投与量及び投与方法は、以下のとおりとする。

(1) 1日20~40mg(力価)/m²(体表面積)を24時間持続点滴

1コース20~80mg(力価)/m²(体表面積)を24~96時間かけて投与し、繰り返す場合には少なくとも3週間以上の間隔をあけて投与する。1日投与量は最大40mg(力価)/m²(体表面積)とする。

(2) 1日1回20~40mg(力価)/m²(体表面積)を静注または点滴静注

1コース20~80mg(力価)/m²(体表面積)を投与し、繰り返す場合には少なくとも3週間以上の間隔をあけて投与する。1日投与量は最大40mg(力価)/m²(体表面積)とする。

投与に際しては、日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、必要に応じて輸液により希釈する。なお、年齢、併用薬、患者の状態に応じて適宜減量する。また、塩酸ドキソルピシンの総投与量は500mg(力価)/m²(体表面積)以下とする。

膀胱腫瘍の場合

11) 1日量、塩酸ドキソルピシンとして30mg~60mg(力価)を20~40mLの日局生理食塩液に1~2mg(力価)/mLになるように溶解し、1日1回連日または週2~3回膀胱腔内に注入する。

また、年齢・症状に応じて適宜増減する。

(塩酸ドキソルピシンの膀胱腔内注入法)

ネラトンカテーテルで導尿し、十分に膀胱腔内を空にしたのち同カテーテルより、塩酸ドキソルピシン30mg~60mg(力価)を20~40mLの日局生理食塩液に1~2mg(力価)/mLになるように溶解して膀胱腔内に注入し、1~2時間膀胱把持する。

◇M-VAC療法

尿路上皮癌

メトトレキサート、硫酸ビンブラスチン及びシスプラチンとの併用において、通常、塩酸ドキソルピシンを日局注射用水または日局生理食塩液に溶解し、成人1回30mg(力価)/m²(体表面積)を静脈内に注射する。

なお、年齢、症状により適宜減量する。

標準的な投与量及び投与方法は、メトトレキサート30mg/m²を1日目に投与した後、2日目に硫酸ビンブラスチン3mg/m²、塩酸ドキソルピシン30mg(力価)/m²及びシスプラチン70mg/m²を静脈内に注射する。15日目及び22日目に、メトトレキサート30mg/m²及び硫酸ビンブラスチン3mg/m²を静脈内に注射する。これを1クールとして4週毎に繰り返すが、塩酸ドキソルピシンの総投与量は500mg(力価)/m²以下とする。

効能・効果（下線部追加・変更部分）

◇塩酸ドキソルピシン通常療法

下記諸症の自覚的及び他覚的症状の緩解

悪性リンパ腫（細網肉腫、リンパ肉腫、ホジキン病）

肺癌

消化器癌（胃癌、胆のう・胆管癌、膵臓癌、肝癌、結腸癌、直腸癌等）

乳癌

膀胱腫瘍

骨肉腫

以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法

乳癌(手術可能例における術前、あるいは術後化学療法)

子宮体癌(術後化学療法、転移・再発時化学療法)

悪性骨・軟部腫瘍

悪性骨腫瘍

多発性骨髄腫

小児悪性固形腫瘍（ユーイング肉腫ファミリー腫瘍、横紋筋肉腫、神経芽腫、網膜芽腫、肝芽腫、腎芽腫等）

◇M-VAC療法

尿路上皮癌

(新聞発表用)

製造

1	販 売 名	デカドロン注射液 (萬有製薬株式会社)
2	一 般 名	リン酸デキサメタゾンナトリウム
3	申請者名	萬有製薬株式会社
4	成分・分量	1 mL 中, リン酸デキサメタゾンとして 4mg 含有する。
5	用法・用量 (「抗がん剤報告書: ピンクリスチン、ドキソルピシン及びデキサメタゾン (骨髄腫 VAD 療法)」に該当する追加部分のみ記載、用法・用量の詳細は別紙 1-3 参照.)	(点滴静脈内注射) 多発性骨髄腫に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合 硫酸ピンクリスチン, 塩酸ドキソルピシンとの併用において, リン酸デキサメタゾンの投与量及び投与法は, 通常 1 日量リン酸デキサメタゾンを 40mg とし, 21 日から 28 日を 1クールとして, 第 1 日目から第 4 日目, 第 9 日目から第 12 日目, 第 17 日目から第 20 日目に, 投与する。 なお, 投与量及び投与日数は, 年齢, 患者の状態により適宜減ずる。
6	効能・効果 (「抗がん剤報告書: ピンクリスチン、ドキソルピシン及びデキサメタゾン (骨髄腫 VAD 療法)」に該当する追加部分のみ記載、効能・効果の詳細は別紙 1-3 参照.)	(点滴静脈内注射) 以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法 多発性骨髄腫
7	備 考	本剤は, 副腎皮質ホルモン製剤である。 添付文書を別紙 2-3 として添付。

別紙 1-3

用法・用量（下線部追加、波下線部は旧字体からの記載整備）

（静脈内注射）

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回2～8mgを3～6時間毎に静脈内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

（点滴静脈内注射）

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回2～10mgを1日1～2回点滴静脈内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

多発性骨髄腫に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合：硫酸ビンクリスチン，塩酸ドキソルビシンとの併用において，リン酸デキサメタゾンの投与量及び投与法は，通常1日量リン酸デキサメタゾンを40mgとし，21日から28日を1クールとして，第1日目から第4日目，第9日目から第12日目，第17日目から第20日目に，投与する。

なお，投与量及び投与日数は，年齢，患者の状態により適宜減ずる。

（筋肉内注射）

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回2～8mgを3～6時間毎に筋肉内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

（関節腔内注射）

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.8～5mgを関節腔内注射する。原則として投与間隔を2週間以上とすること。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

（軟組織内注射）

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回2～6mgを軟組織内注射する。原則として投与間隔を2週間以上とすること。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

（腱鞘内注射）

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.8～2.5mgを腱鞘内注射する。原則として投与間隔を2週間以上とすること。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(滑液嚢内注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.8～5mgを滑液嚢内注入する。原則として投与間隔を2週間以上とすること。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(硬膜外注射)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回2～10mgを硬膜外注射する。原則として投与間隔を2週間以上とすること。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(脊髄腔内注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回1～5mgを週1～3回脊髄腔内注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(胸腔内注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回1～5mgを週1～3回胸腔内注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(腹腔内注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回2mgを腹腔内注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(局所皮内注射)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.05～0.1mg宛1mgまでを週1回局所皮内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(結膜下注射)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.4～2.5mgを結膜下注射する。その際の液量は0.2～0.5mLとする。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(球後注射)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回1～5mgを球後注射する。その際の液量は0.5～1.0mLとする。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(点眼)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.25～1mg/mL溶液1～2滴を1日3～8回点眼する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(ネブライザー)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.1～2mgを1日1～3回ネブライザーで投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(鼻腔内注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.1～2mgを1日1～3回鼻腔内注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(副鼻腔内注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.1～2mgを1日1～3回副鼻腔内注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(鼻甲介内注射)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.8～5mgを鼻甲介内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(鼻茸内注射)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.8～5mgを鼻茸内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(喉頭・気管注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.1～2mgを1日1～3回喉頭あるいは気管注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(中耳腔内注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.1～2mgを1日1～3回中耳腔内注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(耳管内注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回0.1～2mgを1日1～3回耳管内注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

(食道注入)

リン酸デキサメタゾンとして、通常成人1回1～2mgを食道注入する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

効能・効果(下線部追加、波下線部は旧字体からの記載整備)

(静脈内注射)

急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ)、甲状腺中毒症〔甲状腺(中毒性)クリーゼ〕

*リウマチ熱(リウマチ性心炎を含む)

*エリテマトーデス(全身性及び慢性円板状)、*全身性血管炎(大動脈炎症候群、結節性動脈周囲炎、多発性動脈炎、ヴェゲナ肉芽腫症を含む)、*多発性筋炎(皮膚筋炎)

*ネフローゼ及びネフローゼ症候群

*うっ血性心不全

気管支喘息、喘息発作重積状態、*薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹、中毒疹を含む)、血清病、アナフィラキシーショック

重症感染症(化学療法と併用する)

溶血性貧血(免疫性又は免疫性機序の疑われるもの)、白血病(急性白血病、慢性骨髄性白血病の急性転化、慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病を含む)、顆粒球減少症(本態性、続発性)、紫斑病(血小板減少性及び血小板非減少性)、再生不良性貧血、凝固因子の障害による出血性素因

*限局性腸炎、*潰瘍性大腸炎

*重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期、スプルーを含む)

劇症肝炎(臨床的に重症とみなされるものを含む)

*びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎を含む)

脳脊髄炎(脳炎、脊髄炎を含む)(但し、一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ、かつ他剤で効果が不十分なときに短期間用いること)、*末梢神経炎(ギランバレー症候群を含む)、重症筋無力症、多発性硬化症(視束脊髄炎を含む)

悪性リンパ腫(リンパ肉腫症、細網肉腫症、ホジキン病、皮膚細網症、菌状息肉症)及び類似疾患(近縁疾患)、好酸性肉芽腫

特発性低血糖症

副腎摘除、侵襲後肺水腫、外科的ショック及び外科的ショック様状態、脳浮腫、輸血による副作用、気管支痙攣(術中)

脊髄浮腫

*内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎、網脈絡膜炎、網膜血管炎、視神経炎、眼窩炎性偽腫瘍、眼窩漏斗尖端部症候群、眼筋麻痺)、*外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不相当又は不十分な場合(眼瞼炎、結膜炎、角膜炎、強膜炎、虹彩毛様体炎)、*眼科領域の術後炎症

*急性・慢性中耳炎，*滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病及びメニエル症候群，急性感音性難聴，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，*喉頭ポリープ・結節，食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）及び食道拡張術後，耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

（点滴静脈内注射）

急性副腎皮質機能不全（副腎クリーゼ），甲状腺中毒症〔甲状腺（中毒性）クリーゼ〕

*リウマチ熱（リウマチ性心炎を含む）

*エリテマトーデス（全身性及び慢性円板状），*全身性血管炎（大動脈炎症候群，結節性動脈周囲炎，多発性動脈炎，ヴェゲナ肉芽腫症を含む），*多発性筋炎（皮膚筋炎）

*ネフローゼ及びネフローゼ症候群

*うっ血性心不全

気管支喘息，喘息発作重積状態，*薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹を含む），血清病，アナフィラキシーショック

重症感染症（化学療法と併用する）

溶血性貧血（免疫性又は免疫性機序の疑われるもの），白血病（急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病を含む），顆粒球減少症（本態性，続発性），紫斑病（血小板減少性及び血小板非減少性），再生不良性貧血，凝固因子の障害による出血性素因

*限局性腸炎，*潰瘍性大腸炎

*重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期，スプルーを含む）

*劇症肝炎（臨床的に重症とみなされるものを含む）

びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎を含む）

脳脊髄炎（脳炎，脊髄炎を含む）（但し，一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ，かつ他剤で効果が不十分なときに短期間用いること），*末梢神経炎（ギランバレー症候群を含む），重症筋無力症，多発性硬化症（視束脊髄炎を含む）

悪性リンパ腫（リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症）及び類似疾患（近縁疾患），好酸性肉芽腫

特発性低血糖症

副腎摘除

*蕁麻疹（慢性例を除く）（重症例に限る），**乾癬及び類症〔尋常性乾癬（重症例），関節症性乾癬，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群〕，*粘膜皮膚眼症候群〔開口部びらん性外皮膚症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病（眼症状のない場合），リップシュッツ急性陰門潰瘍〕，*天疱瘡群（尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear-Usher症候群，増殖性天疱瘡），*デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡，妊娠性疱疹を含む），**紅皮症（ヘブラ紅色粗糠疹を含む）

*急性・慢性中耳炎，*滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病及びメニエル症候群，急性感音性難聴，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，*喉頭ポリープ・結節，食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）

及び食道拡張術後、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法

多発性骨髄腫

(筋肉内注射)

慢性副腎皮質機能不全(原発性、続発性、下垂体性、医原性)、急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ)、
*副腎性器症候群、*亜急性甲状腺炎、*甲状腺中毒症〔甲状腺(中毒性)クリーゼ〕、*甲状腺疾患に伴う
悪性眼球突出症

慢性関節リウマチ、若年性関節リウマチ(スチル病を含む)、リウマチ熱(リウマチ性心炎を含む)、リ
ウマチ性多発筋痛

エリテマトーデス(全身性及び慢性円板状)、全身性血管炎(大動脈炎症候群、結節性動脈周囲炎、多発
性動脈炎、ヴェゲナ肉芽腫症を含む)、多発性筋炎(皮膚筋炎)、*強皮症

*ネフローゼ及びネフローゼ症候群

*うっ血性心不全

気管支喘息(但し、筋肉内注射以外の投与方法では不適當な場合に限る)、*喘息性気管支炎(小児喘息性
気管支炎を含む)、*薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹、中毒疹を含む)、*血清病

*重症感染症(化学療法と併用する)

*溶血性貧血(免疫性又は免疫性機序の疑われるもの)、*白血病(急性白血病、慢性骨髄性白血病の急性
転化、慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病を含む)、*顆粒球減少症(本態性、続発性)、*紫斑病(血小板減
少性及び血小板非減少性)、*再生不良性貧血、*凝固因子の障害による出血性素因

*限局性腸炎、*潰瘍性大腸炎

*重症消耗性疾患の全身状態の改善(痛末期、スプルーを含む)

*劇症肝炎(臨床的に重症とみなされるものを含む)、*肝硬変(活動型、難治性腹水を伴うもの、胆汁う
っ滞を伴うもの)

*脳脊髄炎(脳炎、脊髄炎を含む)(但し、一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ、かつ他剤で
効果が不十分なときに短期間用いること)、*末梢神経炎(ギランバレー症候群を含む)、*重症筋無力症、
*多発性硬化症(視束脊髄炎を含む)、

*小舞蹈病、*顔面神経麻痺、*脊髄蜘蛛膜炎

*悪性リンパ腫(リンパ肉腫症、細網肉腫症、ホジキン病、皮膚細網症、菌状息肉症)及び類似疾患(近
縁疾患)、*好酸性肉芽腫、*乳癌の再発転移

*特発性低血糖症

副腎摘除、*臓器・組織移植、*副腎皮質機能不全患者に対する外科的侵襲

*蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされを含む)

強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)

*卵管整形術後の癒着防止

*前立腺癌(他の療法が無効な場合)、*陰茎硬結

湿疹・皮膚炎群（急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ピダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部あるいは肛門湿疹，耳介及び外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭及び鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎など）（但し，重症例以外は極力投与しないこと），痒疹群（小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹を含む）（但し，重症例に限る。また，固定蕁麻疹は局注が望ましい），*蕁麻疹（慢性例を除く）（重症例に限る），**乾癬及び類症〔尋常性乾癬（重症例），関節症性乾癬，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群〕，**掌蹠膿疱症（重症例に限る），**扁平苔癬（重症例に限る），*成年性浮腫性硬化症，

*紅斑症（*多形滲出性紅斑，結節性紅斑）（但し，多形滲出性紅斑の場合は重症例に限る），*粘膜皮膚眼症候群〔開口部びらん性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，パーチェット病（眼症状のない場合），リップシュッツ急性陰門潰瘍〕，*天疱瘡群（尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，S e n e a r - U s h e r 症候群，増殖性天疱瘡），*デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡，妊娠性疱疹を含む），

*帯状疱疹（重症例に限る），**紅皮症（ヘブラ紅色粧糠疹を含む），*新生児スクレレーマ

*内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺），*外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当又は不十分な場合（眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎），*眼科領域の術後炎症

*急性・慢性中耳炎，*滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病及びメニエル症候群，急性感音性難聴，血管運動（神経）性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱），副鼻腔炎・鼻茸，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，*喉頭ポリープ・結節，食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）及び食道拡張術後，耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

（関節腔内注射）

慢性関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病を含む）

強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）に伴う四肢関節炎，変形性関節症（炎症症状がはっきり認められる場合），非感染性慢性関節炎，痛風性関節炎

（軟組織内注射）

関節周囲炎（非感染性のものに限る），腱炎（非感染性のものに限る），腱周囲炎（非感染性のものに限る）

耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

難治性口内炎及び舌炎（局所療法で治癒しないもの）

（腱鞘内注射）

関節周囲炎（非感染性のものに限る），腱炎（非感染性のものに限る），腱鞘炎（非感染性のものに限る），腱周囲炎（非感染性のものに限る）

(滑液嚢内注入)

関節周囲炎（非感染性のものに限る）、腱周囲炎（非感染性のものに限る）、滑液包炎（非感染性のものに限る）

(硬膜外注射)

椎間板ヘルニアにおける神経根炎（根性坐骨神経痛を含む）
脊髄浮腫

(脊髄腔内注入)

白血病（急性白血病、慢性骨髄性白血病の急性転化、慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病を含む）のうち髄膜白血病、結核性髄膜炎（抗結核剤と併用する）

脳脊髄炎（脳炎、脊髄炎を含む）（但し、一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ、他剤で効果が不十分なときに短期間用いること）、末梢神経炎（ギランバレー症候群を含む）、重症筋無力症、多発性硬化症（視束脊髄炎を含む）

悪性リンパ腫（リンパ肉腫症、細網肉腫症、ホジキン病、皮膚細網症、菌状息肉症）及び類似疾患（近縁疾患）

(胸腔内注入)

結核性胸膜炎（抗結核剤と併用する）

(腹腔内注入)

手術後の腹膜癒着防止

(局所皮内注射)

陰茎硬結

*湿疹・皮膚炎群（急性湿疹、亜急性湿疹、慢性湿疹、接触皮膚炎、貨幣状湿疹、自家感作性皮膚炎、アトピー皮膚炎、乳・幼・小児湿疹、ピダール苔癬、その他の神経皮膚炎、脂漏性皮膚炎、進行性指掌角皮症、その他の手指の皮膚炎、陰部あるいは肛門湿疹、耳介及び外耳道の湿疹・皮膚炎、鼻前庭及び鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎など）（但し、重症例以外は極力投与しないこと。局注は浸潤、苔癬化の著しい場合のみとする）、*痒疹群（小児ストロフルス、蕁麻疹様苔癬、固定蕁麻疹を含む）（但し、重症例に限る）、*乾癬及び類症〔尋常性乾癬（重症例）、関節症性乾癬、乾癬性紅皮症、膿疱性乾癬、稽留性肢端皮膚炎、疱疹状膿痂疹、ライター症候群〕のうち尋常性乾癬、*扁平苔癬（重症例に限る）、*円形脱毛症（悪性型に限る）、*早期ケロイド及びケロイド防止

耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(結膜下注射)

内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺），外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当又は不十分な場合（眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎），眼科領域の術後炎症

（球後注射）

内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺），外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当又は不十分な場合（眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎）

（点眼）

内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺），眼科領域の術後炎症

（ネブライザー）

気管支喘息，喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎を含む）

びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎を含む）

侵襲後肺水腫

血管運動（神経）性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱），副鼻腔炎・鼻茸，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，喉頭ポリープ・結節，食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）及び食道拡張術後，耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

（鼻腔内注入）

血管運動（神経）性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱），副鼻腔炎・鼻茸，進行性壊疽性鼻炎，耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

（副鼻腔内注入）

副鼻腔炎・鼻茸，進行性壊疽性鼻炎，耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

（鼻甲介内注射）

血管運動（神経）性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱），耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

（鼻茸内注射）

副鼻腔炎・鼻茸

（喉頭・気管注入）

進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，喉頭ポリープ・結節，耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(中耳腔内注入)

急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

(耳管内注入)

滲出性中耳炎・耳管狭窄症

(食道注入)

食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）及び食道拡張術後，耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法

*印：下記の場合にのみ用いること

1) 静脈内注射及び点滴静脈内注射

経口投与不能時，緊急時及び筋肉内注射不適時

2) 筋肉内注射

経口投与不能時

★印：外用剤を用いても効果が不十分な場合あるいは十分な効果を期待し得ないと推定される場合にのみ用いること